



TCA ニュース

= 2003年10月発行 = 【No. 175】

発行 東京サイクリング協会 広報委員会

〒104-0061 東京都中央区銀座7-15-11 Tel・Fax 03-3541-6540

サイクリストの五楽 輪楽・自転車を楽しむ 行楽・旅を楽しむ 道楽・道を楽しむ 友楽・友と楽しむ 遊楽・遊びを楽しむ



関東甲信越ブロックサイクリング in 千葉

9月13日(土) ~ 14日(日)

知事と一緒にサイクリング

TCA専務理事：日向宏之

一瞬、息がつまる。突然の向い風。30kmコースとの別れの後踏切を渡り突き当たり、地図を見違え右に曲がりかけて気付き正しいコースに戻って1km、今度は案内の矢印も確かめて本当に右折。その直後のことだった。それからというもの、前からは吹き付ける風、左からは照りつける陽光、両方とも遮るものなく容赦ない。上目づかいに先行するサイクリストを探し当てると踏み上げてピットリマーク。それでも風風風、日射し。

ああ、さっき詣でた成田山新勝寺の御加護は一体どうなっているんだろう。

これこれ、しみったれたさい銭で高望みするでないぞ。この風は台風の余波じゃ。

台風だぞ。台風といえば雨と風。これでも太っ腹に5割引きじゃ。太陽のおまけまでつけてな。たしかに。これで雨が降って、寒かったら・・・ありがとうございます。極楽でございます。

甚兵衛大橋の手前のコンビニで富田浩義さんと一緒になり、いよいよ印旛沼を巡るサイクリングロードへ。押し寄せる空気の壁に頭突きを食わせながら時々横目で左手に広がる水辺の景色を眺め、のどかな日和ならさぞかしのどかだろうと当たり前のことを改めて思う。傍らの標識に目をやる。「自転車専用」の文字。いいなあ千葉県は。御墨付きだ。ジョガ - はともかく凧揚げ、リードを横にはっての犬の散歩に悩まされる多摩川堤をふと想う。振り返ると富田さんの姿がない。しばらく待つ。誰も来ない。少し戻る。反対に走るのはなんて楽なんだ。しかし誰にも行き会わない。私が道を間違えたのか。いや、道中にまぎれはない。ソロで走る。嬉しや、船戸大橋。これを渡れば一転して追い風だ。

あとで、改めてコース説明図を見て、この手前に「眺めが最高」という印旛沼師戸城址公園があったことを知る。風に気をとられるあまり見過ごしてしまった。残念。

このサイクリングロードではかの高橋尚子選手が練習していたとか・・・両側の草丈が高く水面はろくに見えない。あっという間に風車小屋。京成電鉄の車窓から見る度に「いつの日か」と思っていたが、その願いが叶い内部をじっくり観察することができた。本場オランダでは排水に使う風車の動力をここでは揚水に用いているという。風車を回そうというときは四枚の羽根にキャンバスを張り風を受けるのだが、見れば帆を下ろして骨組みだけになっているのに羽根はかなりの速さで回っている。風車番のお兄さんにとっても初めての経験だそうだ。勤めて何年かは知らないが。残りは27km。

南北に分かれた印旛沼をつなぐ水路の沿岸は同じ道の行って来いだ。さっきの地獄がいまは天国、たっぴりと風景を楽しむ。日本人はなぜ印象派が好きなのだろうか。

C C Aは会員の数少なく立哨も手薄では、という心配の声も聞いたが、どうしてどう

して過不足ない誘導だ。再来年の東京はこんなにうまくやれるだろうか。そのほうが心配だ。

酒直水門を過ぎての北上の道に入ったところですれ違った一団。あれ。見なれたT C Aのメンバーだ。君達なんで逆走してるの？ えー、逆走はそっちでしょう。40kmも走ってきたんだ、んなわきゃないよ。大体いま地図上のどこにいると思うの？

どうやら、私がただ一度間違えかけた成田線踏切西のT字路を右折したらしい。

「房総の村」。江戸時代と思われる町並みの再現。入場無料。そこからゴールまでは、さながらプロ野球の消化試合。2時過ぎに、朝のスタートラインを逆に通過してゴール。気になっていた富田さんも間もなく元気に到着。早速顔にこびり着いた砂埃の膜を洗い落としたかったが、私には「そのあと」があった。

約一ヶ月前の「首都圏協議会」銀座のある店に千葉の斉藤昇さん、埼玉の渡邊廣次さんそれに東京の数人が集まった。話は関東甲信越ラリーの開会式の来賓の話になった。

「祝辞は成田の市長」「知事は？」「……知事は」

「誘ってみようか」「伝手がある？」

実は堂本暁子さんと私はかつての同僚で、加藤さんとも共通の知人だった。ちょっとアルコールも入っていた私は軽率にも斉藤さんに約束してしまった。いきなり電話したって相手は忙しいだろうし……。取りあえず千葉の現住所を調べるために今年の年賀状の束をチェックすると「今年もよろしく。サイクリングを是非ともと思っています」。

手紙を書いた。返事は自筆のFAXで来た。「本当はラリーに参加したい心境です。実際は13日(土)夜に一つ予定が入っているのですが、動かせるかどうか検討中です」

待った。車の中からと思える電話がかかって来たのは8日の火曜日。

「私、やっぱり久しぶりにサイクリングしたいわ。どうすればいい？」

どうすればいいかは判らなかつたけど、全部何とかするからと引き受けた。

まず斉藤さん、そして実行委員長の佐藤明弘さんと連絡を取り合う。大会の四日前の忙しい最中に持ち込まれた実行委員長はさぞかし迷惑だろうな。以後、堂本さん側の窓口は知事室の吉田さんという男性と決まった。乗ると言ってもたとい30kmコースでもまるまるは無理だろう。2時半に房総の村からスタートして30kmコースの後半を走り4時に会場のマロードインに到着、休憩、身繕いあって、5時からの開会式に臨む、というのが最初の案だった。ところが、知事には男女二人のSPが付くその二人の為の自転車はどうする。成田を中心に知事が15kmも自転車で走る、ということは空港反対派にとっては刺激が強すぎる、と県警が難色を示しはじめた。知事のスケジュールがタイトになり、実際に身体が空くのは4時になってしまうということがわかった。斉藤さんは県警に呼ばれなぜか知らぬがとっちめられ、しかし負けずに反論し最後は「顛末書」を書くことで折り合った。その度に千葉と川崎の自宅の間で電話が行き交い、うちのかみさんは「また県外にかけた。携帯にこっちからかけてえんえん喋ってたら料金がどうなると思ってんの」と金切り声をあげる。結局、走るのはホテルの周囲を一周するだけ、着替えはなしでそのまま式に出席する、ということになった。その間に堂本知事はどうせ乗るならこの際自分の自転車をと、セオサイクルラポート店に夜の9時に出かけプジョーのクロスバイクを購入した。SP用の2台もセオが貸してくれることになった。4時15分、黒塗りの車がホテル正面に着いた。車の中の堂本さんは既にユニフォームに着替えていた。しかもそれは、私と並んで出迎える加藤さんのそれと同じものだった。

久しぶりの挨拶もそこそこに「サイクリング」のスタート、先頭は成田が地元の花沢敏裕さん、その後ろは堂本さんを挟んで加藤さんと私、後詰めはC C Aの三瀬二千六さん。それに二人のSPが絡むという隊列で約1kmのコースを回った。

ゼロエミッションのユニフォームのままひな壇に上がった堂本さんの祝辞は「私がこんな格好でここにいるのは、決して手軽なパフォーマンスではありません。

私はサイクリングも大好きです。

それが証拠にこのユニフォームは東京サイクリング協会の加藤さんと同じです。加藤さん、立って下さい。ねっ。私が参議院議員のころロシア大使とサイクリングをすることになったんですけど、適当な自転車が無かったので、以前からお友達だった加藤さんからマウンテンバイクを貸して頂きました。

このシャツは加藤さんがデザインされたものでその時のプレゼントです」で始まった。

堂本さんは交歓会の途中まで会場に留まり、大勢の人々にせがまれて記念写真を取り、誰かのTシャツにサインをし、C C Aに一般会員として入会することを宣言して次の公務に向かった。

「素晴らしい方ですね」「気さくな知事さんですね」



〔 加藤副会長(前)と揃いのユニフォームを着て走る堂本知事 〕



その後の堂本さんへの賛辞は「友人」たる私に向かった。「それは、堂本さんを知事に選んだ千葉県民が素晴らしいということです」と私は答えた。

九月十四日(日)大会会場の
マロウドインターナショナル
ホテル前

